

-アデランスと大分大学との共同研究-

「新規αリポ酸誘導体」を用いた抗がん剤脱毛抑制研究の成果

1. 基礎研究

方法：抗がん剤誘発脱毛ラットにαリポ酸誘導体を経皮投与し、その脱毛の程度と、皮膚の組織学的所見を比較した。

結果：

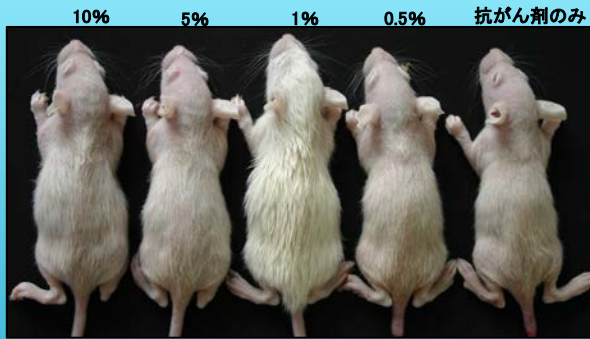


図1. αリポ酸誘導体経皮投与 Surgery Today, 2011

抗がん剤のみ(右端)に比べ1%アルファリポ酸誘導体経皮投与(中央)で脱毛抑制を認めた。

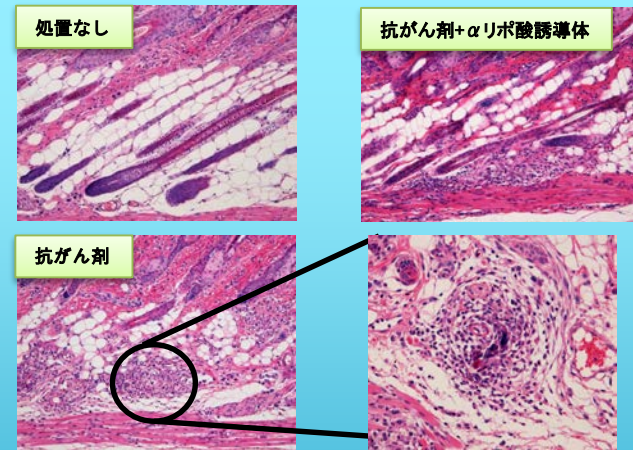


図2. 皮膚の組織学的所見 Surgery Today, 2011

処置なし(左上)に比べ、抗癌剤のみ(左下)では、毛根、毛幹が消失し、真皮内にリンパ球を中心とした炎症細胞の浸潤を認めた。αリポ酸誘導体経皮投与(右上)では、炎症細胞の減少、毛根、毛幹の増加を認めた。

2. 臨床研究

「乳癌患者における抗癌剤誘発脱毛に対する新規脱毛抑制物質DHL-HisZnNaの有用性を検証する第Ⅲ相試験」(UMIN臨床試験ID000014840)

方法：化学療法を行う原発性乳がん患者さんに化学療法中施行期間中、毎日αリポ酸誘導体含有ローションを1回4ml、1日4回、頭皮および眉毛へ塗布し、4方向の写真撮影にてその脱毛の程度を中央判定委員により評価した(図3)。

結果：解析対象91例中、50%以上の脱毛は全例で発生した。化学療法終了後3カ月目には8割を超える症例で脱毛が回復した(通常、化学療法終了後3カ月目頃より回復が始まる)。



左側面

右側面

後面

頭頂部

脱毛の程度を写真(左側面、右側面、頭頂部、後頭部)で

1)0%、2)1-25%、3)26-50%、4)51-75%、5)76-100%

のいずれかを判定する。

図3. 写真判定方法